五葉松

七葉松まれにあり本草家言一といへり、植樹家にて千葉のから松といふものなりとぞ、本草綱目啓蒙西土の果松なりといへり、

〔古今要覽稿草木〕五葉松〇中略　釋名

五葉松倭名類聚抄、按に本草綱目に唐蕭炳四聲を引て、五粒松一叢、五粒松楊子漢語抄、按に酉陽五葉如二釵子一とあれば、李唐の人また既に五葉の名をいへり、雜俎に、松今言二兩粒五粒、本草圖經を引て、五粒字當レ作二五鬣一、音轉訛也、五鬣爲二一叢一といへども、酉陽雜俎を引べきなり、東雅に按に、集韻に鬣弋涉切音葉とあれば、五鬣もと五葉の義なるべければ、粒の字と轉訛すべきにあらず、然るを五粒五鬣相誤るを以て考ふれば、唐人既に鬣を獵の音によめると聞えたり、つばの松藻鹽草　五鬣松本草家言

〔大和本草十果木〕海松　五葉ナリ、若水曰、信州戸隱山ニアリ、然レバ日本ニ本ヨリアリ、カラ松ト訓ズルハ非ナルベシ、松カサ大ナリ、子ハ果トシ食フベシ、日本ノ產ハ朝鮮ヨリ來ルニヲトル、本草新羅者甚香美、又曰新羅往々進之、然レバ中華ニモ朝鮮ノ產ヲ佳品トス、

〔甲斐國志百二十三產物及製造〕松〇中略　五鬣松又五粒、五葉トモ云、材トシ板トス、鬼五葉ト云ハ、葉强大ニシテ松毬長大、中子如二小脂頭一、外皮ハ胡桃ニ似タリ、海松子是ナリ、姫五葉ハ柔ニシテ、大小相對セリ、

〔拾遺和歌集一春〕おほきさいの宮に、宮內といふ人のわらはなりける時、だいごのみかどのおまへにさぶらひけるほどに、おまへなる五葉に鶯のなきければ、正月はつねのひつかうまつりける、

大伴家持

松のうへになくうぐひすのこゑをこそはつねの日とはいふべかりける、

〔臥雲日件錄〕寶德四年〇享德元年十一月十一日、天英來曰、李賀詩有二五粒松一、注曰、有二五花一云々、然則五鬣、鬣曰二與レ粒音相近一、故云二五鬣一乎、南禪勗藏主來、因出二示雙桂所レ作花溪贊幷眞啓首座所レ述行狀一、

〔明良洪範十七〕松平丹後守信重在江戸ノ時、五葉ノ松ノ鉢植ヲモトメ秘藏セリ、歸國ノ節モ、吾乘物ノ內ヘ入レテ持參シ、居間ノ椽ヘ置キ、朝夕ナガメテ樂メリ、然ルニ或朝坊主掃除ヲセシニ、此